



成果指標				
成果指標	施設利用延べ人数			
指標設定の考え方	施設活用の効果の判断基礎となる施設利用者数			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標30年度
目標	2,000人	2000人	2000	2000
実績	2148	1998人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	引き続き、指定管理者制度による管理運営が妥当と考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	当施設は、特産品の開発及び地域活性化を図る目的で導入され、現状の指定管理者制度による管理運営の継続が適当である。今後、地域活性化を図るうえからも、加工品のPR等に努める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題